

『出会いで変わる人生』 ～ 『いかにして、学ぶか』 ～

2026 年 7 月 25 日 夜 テレビの生中継で 隅田川花火大会を観た。花火大会は、江戸時代からであろうか？ 大いに心が癒された。7 月 26 日 早朝は、『使命を 生きる という事 ～ 真のホスピス緩和ケアと がん哲学外来からのメッセージ ～』（柏木哲夫 & 樋野興夫 共著：2012 年 11 月 6 日 青海社 発行）（添付）を再読した。

【2012 年 5 月 26 日 第 1 回『がん哲学外来 ― お茶の水メディカルカフェ in OCC』と『お茶の水メディカルカフェ 開設記念講演会』が開催された。『開設記念講演会』は、柏木哲夫先生（金城学院学院長・大阪大学名誉教授・淀川キリスト教病院名誉ホスピス長・日本ホスピス緩和ケア研究振興財団理事長）の『生きること、寄りそうこと』であった。『sense of humor』（新渡戸稲造：1862-1933）の実例であり、『人生の使命』の再認識でもあった。『運命 = 命を運ぶ & 使命 = 命を使う』の定義を学んだ。講演会の後、柏木先生と 2 時間の対談の時間が与えられ、それが契機となって、この本の出版の運びとなった。】と記述されている。

【目次】は、下記の如くである。

医療の主流と本流 ― 「まえがき」に代えて		柏木哲夫
○ ホスピス医としての使命	エッセイ 1	柏木哲夫
○ 「がん哲学外来」の原風景	エッセイ 2	樋野興夫
○ ホスピスケアの原点にたつて	エッセイ 3	柏木哲夫
○ だれから、いかにして、学ぶか	エッセイ 4	樋野興夫
○ 出会いで変わる人生	ダイアログ 1	
○ 支える・寄り添う・背負うケア	エッセイ 5	柏木哲夫
○ 医療の隙間を埋める	エッセイ 6	樋野興夫
○ 根っこでの人と人のつながり	ダイアログ 2	
○ 人生を考える	エッセイ 7	柏木哲夫
○ 「がん哲学外来」の使命	エッセイ 8	樋野興夫
○ よき生と死のための使命	ダイアログ 3	
「あとがき」 ― 恩師 菅野晴夫先生に捧ぐ		樋野興夫

本当に懐かしい思い出である！ まさに『出版 14 周年記念』である。

7 月 26 日 午後は、2014 年 7 月 6 日スタートされた【12 周年記念『がん哲学外来メディカル・カフェ@よどばし（第 138 回）』】（淀橋教会に於いて）に赴く。

使命を 生きる ということ

真のホスピス緩和ケアと
がん哲学外来からのメッセージ

Tetsuo KASHIWAGI

Osao HINO

柏木哲夫＋樋野興夫



MISSION^(使命)
としての人生を
感じるとき

日常での新しい出会い、
気づきを心や体の細胞で感じる。
私たちはいつも今、
生まれたての
いのちの風の中にいる。

青海社